



浪花みやげ三編 四

76
1538
13



あききも親玉はと見立船

親玉はと見立船

東之方

西之方

蘭 かんごうの親玉
紙まきとも
うまごね

蘭 びごうの親玉
一文めうとも
うまごね

巖 帆の親玉
うまごね
うまごね

巖 百人の親玉
よまごね
かまごね

小結 若人の親玉
かまごね
うまごね

小結 若人の親玉
かまごね
うまごね

壱 ならぬの親玉
うまごね
うまごね

壱 けいせいの親玉
うまごね
うまごね

壱 ちんごの親玉
かまごね
うまごね

壱 ちんごの親玉
うまごね
うまごね

壱 海人の親玉
うまごね
うまごね

壱 海人の親玉
うまごね
うまごね

壱 ちんごの親玉
うまごね
うまごね

壱 眞女の親玉
かまごね
うまごね

壱 子孫者の親玉
うまごね
うまごね

壱 子孫者の親玉
うまごね
うまごね

壱 志んごの親玉
うまごね
うまごね

壱 おうごの親玉
うまごね
うまごね

壱 ちんごの親玉
うまごね
うまごね

壱 ちんごの親玉
うまごね
うまごね

壱 やすみの親玉
うまごね
うまごね

壱 いまの地の親玉
うまごね
うまごね

壱 かわさきの親玉
うまごね
うまごね

壱 曲りの親玉
うまごね
うまごね

書目林 藤卓紙三

浮世定いびり見え物

勸進元 ばきんげんきんぎんちりちりの

おやまさん

大関 たんとすいつけてんて
やいばりてからけりやうきやうす

関根 ばきんげんきんぎんちりちりの
みいよふちりちりちりちりちり

小結 ばきんげんきんぎんちりちりの
かきんげんきんぎんちりちりちり

花頭 くいんげんきんぎんちりちりの
のせておおく

同 ことんげんきんぎんちりちりの
むりやうておおく

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ひまふておおく

同 のべとんげんきんぎんちりちりの
のべとんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

行司 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

義人 ことんげんきんぎんちりちりの

おまへさん

大関 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

関根 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

小結 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

花頭 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

同 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

行司 ことんげんきんぎんちりちりの
ことんげんきんぎんちりちり

読 南 華 經 入 海 鏡 下

くさくさくさくさくさくさく

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

たてたてたてたてたてたて

たてたてたてたてたてたて
たてたてたてたてたてたて
たてたてたてたてたてたて

こーこーこーこーこーこー

こーこーこーこーこーこー
こーこーこーこーこーこー
こーこーこーこーこーこー

むむむむむむむむむむ

むむむむむむむむむむ
むむむむむむむむむむ
むむむむむむむむむむ

も代のお

も代のお
も代のお
も代のお

まままままままままま

まままままままままま
まままままままままま
まままままままままま

じしししししししししし

じしししししししししし
じしししししししししし
じしししししししししし

なななななななななな

なななななななななな
なななななななななな
なななななななななな

かかかかかかかかかか

かかかかかかかかかか
かかかかかかかかかか
かかかかかかかかかか

かかかかかかかかかか

かかかかかかかかかか
かかかかかかかかかか
かかかかかかかかかか

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

たてたてたてたてたてたて

たてたてたてたてたてたて
たてたてたてたてたてたて
たてたてたてたてたてたて

いなゑに
いゑも
むな
る
る
あ
忠
相
模

勸進元 原のつとまた

羞人 じつら 久音 老 美

東のち

西のち

大関 本ぞとふとつたの

大関 煙のたをきつらぶるの

関股 まんごのつこの

関股 ちやのすけりつこの

小結 しまひのまなぶの

小結 ちやのすけりつこの

前頭 長崎のまなぶの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 下らまのつこの

前頭 かわるのつこの

前頭 いたまのつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

前頭 ちやのすけりつこの

行司 ちやのすけりつこの

行司 ちやのすけりつこの

今井秀丸作

儉約者まの鳥

元いきまの鳥のからしうはりし名をもとて井原次を以てけきかるといふ
 妙とある人の曰くは鳥のまの鳥とていふや一はまの鳥のまの鳥はま
 鳥といふまの鳥のまの鳥はまの鳥のまの鳥はまの鳥のまの鳥はま
 のまの鳥のまの鳥はまの鳥のまの鳥はまの鳥のまの鳥はまの鳥はま
 初ものまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 妙業なることと相合しておのび一
 業名にうつてヤクつまんで
 持てよ又平世の七業名の
 志ん坊やまのまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 一味のまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 まの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 まの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 けをたむけしむまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 かうてはゆるまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 くまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 みす流中まの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 志まの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 今治のまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま



たまごころ
 の青しお
 お世姫まをなむまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 今浪や幾も世界のまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 今治のまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま

今浪や幾も世界のまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま
 の青しお
 お世姫まをなむまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はまの鳥はま

今井秀方井作

家名酒物具立相模

東の方

西の方

大関 なすん あまを

大関 なすん かわかを

関取 別名 赤んを

関取 赤ん 赤らにを

小結 赤ん 赤せを

小結 赤ん 赤せを

前頭 かすの 高きを

前頭 かすの もりを

前頭 かすの ぶんを

前頭 かすの ふせを

前頭 あひの だごを

前頭 あひの かけを

前頭 あひの かつを

前頭 あひの ふきを

前頭 あひの おまを

前頭 あひの くらを

前頭 あひの かせを

前頭 あひの 茶を

前頭 あひの ぶくを

前頭 あひの 赤んを

前頭 あひの こいを

前頭 あひの 戸を

前頭 あひの きちを

前頭 あひの いごを

前頭 あひの かうを

前頭 あひの ちごを

前頭 あひの たいを

前頭 あひの おつを

前頭 あひの 十を

前頭 あひの お七を

次山人不問序

書林華草紙

近き女もあつて鬼相模

東うし方

西うし方

奇 あまのこゝろの
よこゝろのまじり

奇 あまのこゝろの
まじり

巽 あまのこゝろの
まじり

巽 あまのこゝろの
まじり

小結 あまのこゝろの
まじり

小結 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

前頭 あまのこゝろの
まじり

あまのこゝろのまじり

あまのこゝろのまじり

あまのこゝろのまじり

あまのこゝろのまじり

あまのこゝろのまじり

あまのこゝろのまじり

あまのこゝろのまじり

あまのこゝろのまじり

おきりらるる見立相模三編

東の方

西の方

大関

かしの合とていふは、
あつちのいふは、

大関

あつちのいふは、
あつちのいふは、

関取

あつちのいふは、
あつちのいふは、

関取

あつちのいふは、
あつちのいふは、

小結

あつちのいふは、
あつちのいふは、

小結

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

前頭

あつちのいふは、
あつちのいふは、

赤三茶と黒三茶の区別
川の口よりあつち

大坂口のあつち
口の口よりあつち

又つり破へつり見立相模 四編

東の方

西の方

大角

なはらちのおねみで
かつかちちがなまれる

大角

てんぐのめんて
おつらつらなまれる

関

一体の一のまえて
一のまがたまれる

関

もろのわーて
あつちのまなまれる

小結

まのへんどもて
大丸のまなまれる

小結

かまのつらへんて
あつちのまなまれる

前頭

あひらうらまはる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

大令むとて
あつちのまなまれる

前頭

牛のまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

前頭

あつちのまなまれる

此度の字は長言に... 外頭見ると相續

外頭見ると相續

大 小 川 関 内 大 小 川 関 内 大 小 川 関 内... 相續見ると相續

大 小 川 関 内 大 小 川 関 内 大 小 川 関 内... 相續見ると相續

近日編者... 書林兼草紙屋

石室書文句巻二

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

つゆであめーりー

曙千角著

あまのこゝろのまよひのよひか
あまのこゝろのまよひのよひか

見立相撲

勸進元元朝のまよひのよひか

義人まいごのまよひ

こゝろのまよひのよひか

こゝろのまよひのよひか

大関 おんぎのまよひ

大関 後まよひのまよひ

関取 びびりまよひ

関取 大まよひのまよひ

小結 おろろまよひ

小結 かりまよひ

前頭 けりまよひ

前頭 いぬのまよひ

前頭 ころまよひ

前頭 ふくろまよひ

前頭 まがのまよひ

前頭 徳のまよひ

前頭 志んまよひ

前頭 おまよひ

前頭 山あまよひ

前頭 おまよひ

前頭 いせまよひ

前頭 みるまよひ

前頭 かつまよひ

前頭 ねこのまよひ

前頭 若川まよひ

前頭 といまよひ

前頭 まがのまよひ

前頭 けんまよひ

前頭 三平まよひ

前頭 いまよひ

前頭 京のまよひ

前頭 勢のまよひ

前頭 ぼろまよひ

前頭 大まよひ

書林兼草紙屋

今并泰格作

食物生類の回答

喰わさか回

生類さか書

甲斐のひらき

甲斐の海

ねこやまのゆらぎ

ねこやまのゆらぎ

みづのあらし

うづつ

みづのり

こ

てら

松

南力

か

ち

す

か

へ

の

洗

や

さ

の

亀

ま

む

今井春九作

食物生類むら回各

編二

喰あむ方回

生類むら各

たきまがらたのきまがら

がらおらみまがら

かきのなかき

常るけん

大りかみ

おわけ

えすねた

孫か

かぶらや

洗き

かうか

みか

が大

はお

わせ

ちわ

からよ

ひや

かま

らあ

よま

女あ

ほま

さち

今井兼光

食物生類むら函名

三編

食物むら方四

生類むら方三

あまのり

あまのり

すくも

すくも

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

今井泰成作

食物生類むの問答 編四

喰おむ方同 生類む方答

からすん くらすん

わきいろ わきいろ

あちあま あちあま

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

あぶる争 あぶる争

書林集



常言粹のたより

浪華堂九作

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり





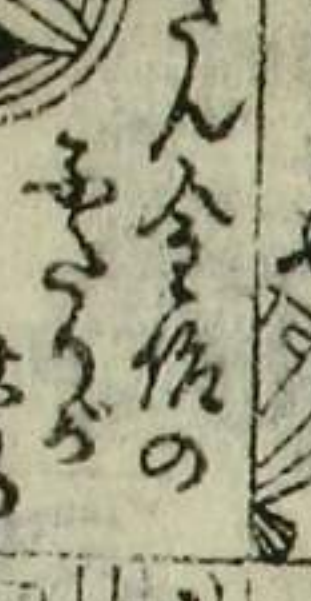
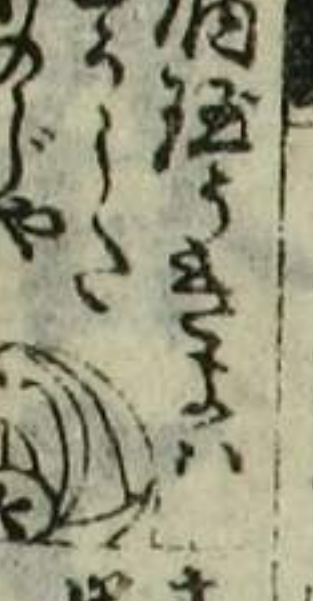
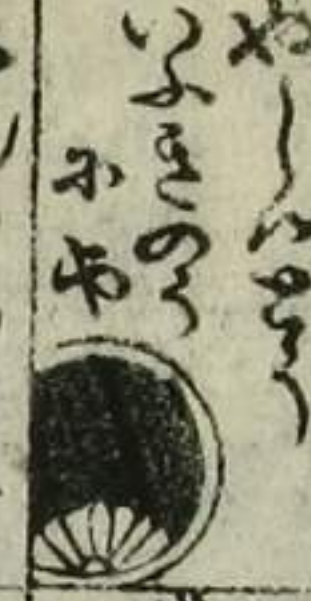
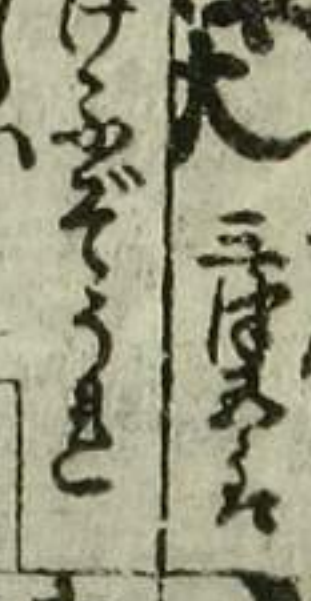
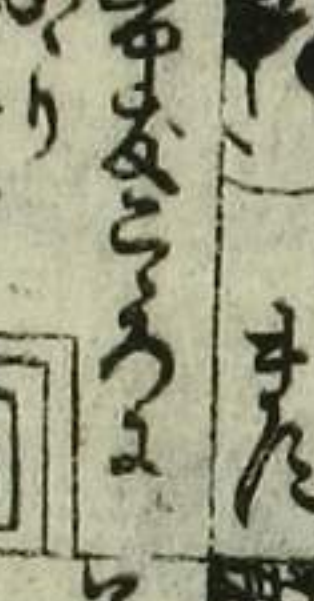
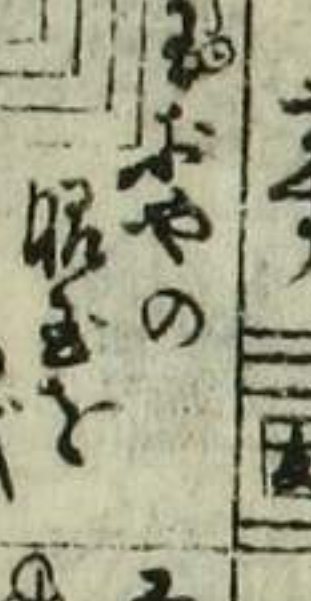





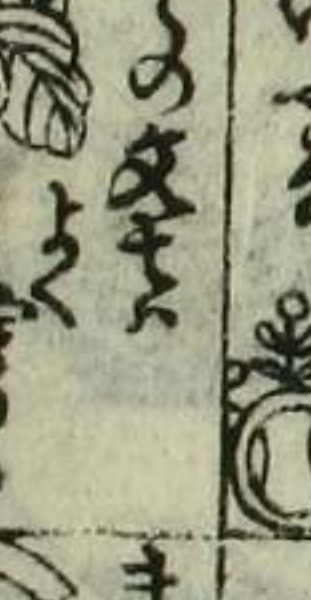
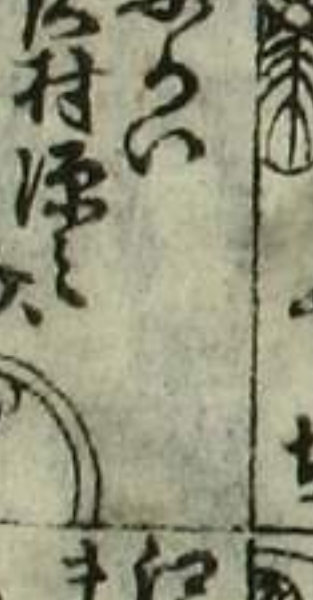

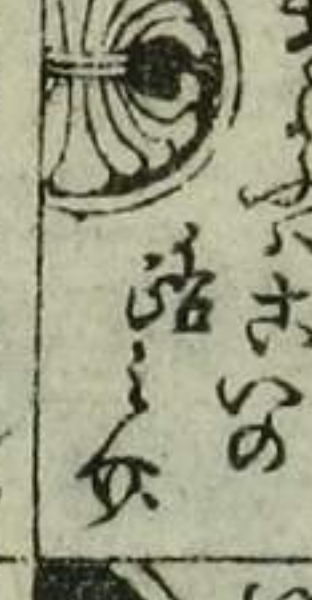

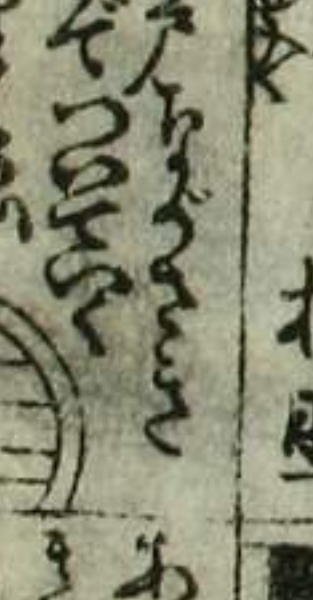
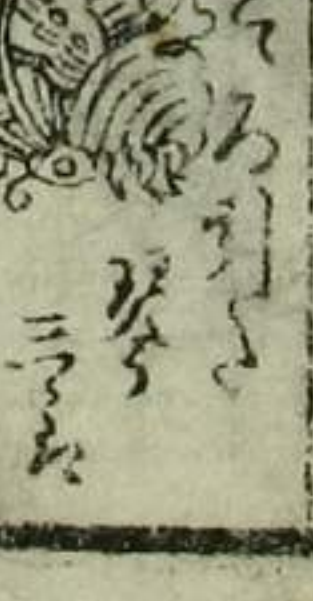
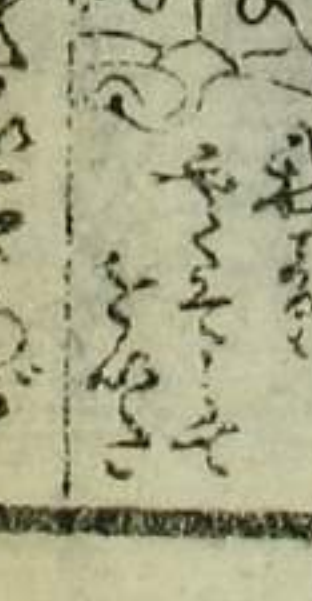



けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

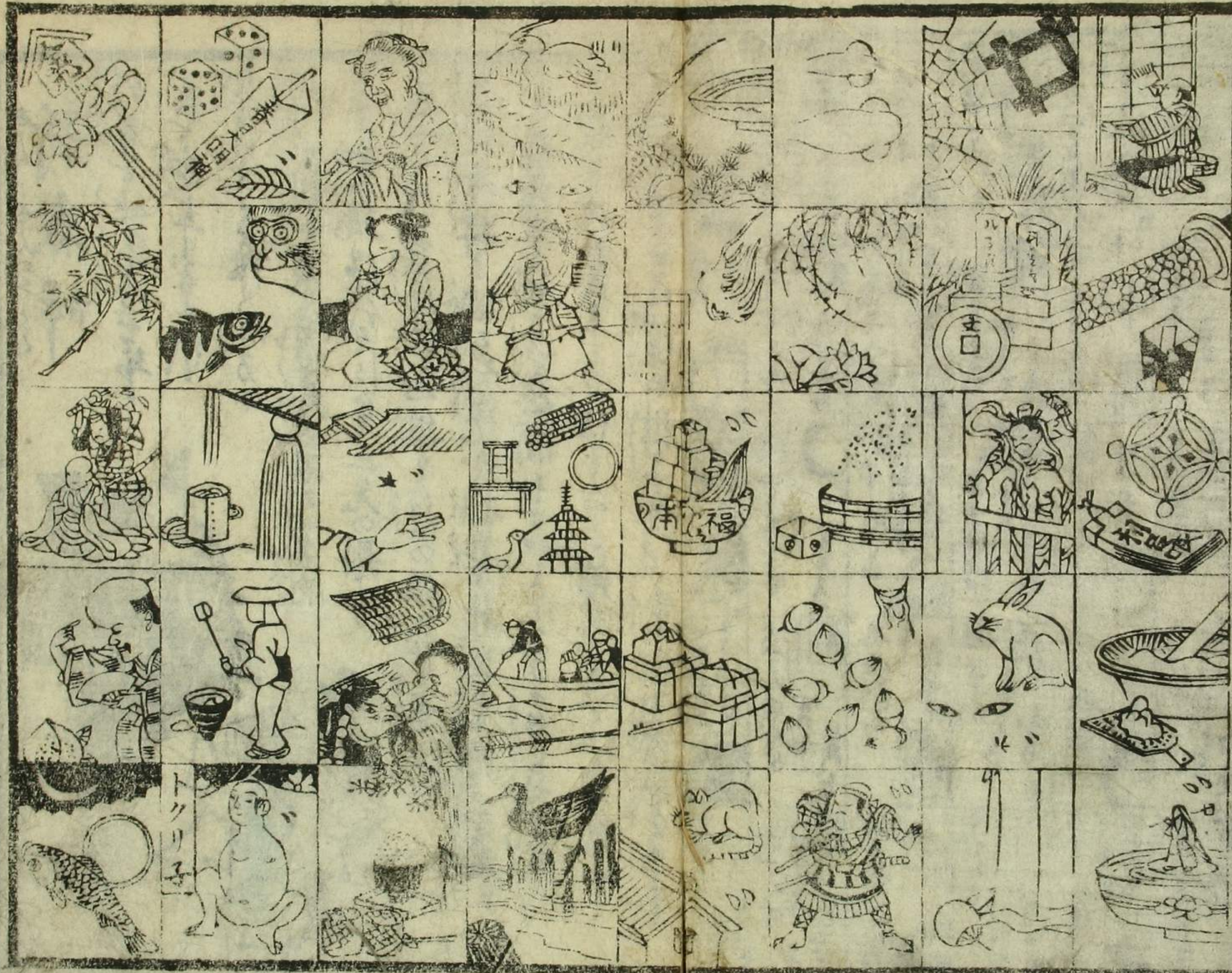
けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり
 けのまゝに
 なまじり

徳義氏に谷文相

 <p>徳義氏に谷文相</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>	 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>
 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>	 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>
 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>	 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>
 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>	 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>
 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>	 <p>徳</p>	 <p>義</p>	 <p>氏</p>	 <p>に</p>	 <p>谷</p>	 <p>文</p>	 <p>相</p>

春のめ繪か人がま



春のめ繪か人がま

あんなゆゑのこころ
新春辞

仍奉と迄と今を年

去と今年より千代も

舞けしと春風もゆめあふ

起つて目おだも蓬来三宮四宮ね

あふ有新降代ぞと先三光の那より

若やくこの湯湯老後も後の候はる夢と

實に春楸と榊と魔小揺あす神馬も燈も

よ海尻市飲居居酒と若とこころの音も村を

千代も不さな年をば様とこころ願ひの言とこころの身も

も智とこころに櫛や榊を門と春の白小舞ひとこころ

福美のまゝのまゝのつらそ松井梅とつらこの内好をた

入るも舞が祝初やしら目かこち若我

まもも新むの清さあ春舞下納り

たのま度小清ととち内室船

漕まわるとまどと案

ふらふ



あ

ほがた

ちやごう



旭亭 又曾也

嘉永七寅年新版 芝長公集の國月ありし月多し其の内ふ
 中より今月の月より其下中の月とすべし

大日本年曆閏月鑑

正月 閏	慶安元年 元禄二年 宝永五年 享保五年 天明四年 享和三年 文政五年 天保五年	二月 閏	慶長七年 寛永六年 寛文七年 元禄十年 享保元年 宝曆四年 寛政四年 文化八年	三月 閏	慶長四年 元和四年 寛永五年 貞享三年 享保二年 安永二年 天保元年
四月 閏	慶長十五年 寛永三年 明暦二年 延宝三年 宝永二年 享宝九年 寛保三年 宝曆五年 寛政五年 文政二年 天保九年	五月 閏	正保二年 寛文四年 天和三年 元禄七年 正徳三年 享保七年 天明元年 弘化三年	六月 閏	元和元年 承應二年 寛文十二年 宝曆元年 明和七年 寛政元年 文化五年 文政十年
七月 閏	慶長元年 寛永十年 享保六年 元文五年 宝曆九年 安永七年 寛政九年 天保六年	八月 閏	慶長九年 元和九年 寛文元年 延宝八年 元禄四年 元禄十五年 宝永七年 文化二年 文化七年 文政七年	九月 閏	寛永九年 元禄七年 享保五年 明和四年 天明六年 天保十四年
十月 閏	慶長十七年 寛永八年 寛安三年 寛文九年 享保三年 寛延元年	十一月 閏	慶長六年 寛永六年 元文二年 寛曆六年 寛政六年 文化十年 天保三年	十二月 閏	元和元年 萬治元年 延宝五年 明和元年 安永四年
追加					
四月 閏 嘉永二年 二月 閏 嘉永五年 七月 閏 嘉永七年					

秀俊 大和中納言實三位法印子

女子 森美作守妻

女子 毛利甲斐守妻

秀次 關白內大臣初為三好山城守養子故号三好孫七良實三位法印子秀吉養子

秀秋 金吾後号筑前中納言實木下肥後守家定子秀吉養子家定者秀吉公妻之兄

棄君 幼卒去

秀頼 右大臣從二位卒歲元和元年五月七

見城御壽六十三歲

奉葬洛東南阿弥陀峯
謚豐國大明神

居城攝州東成郡大坂城

京都聚樂御館

山城伏見御下館

北政所高麗院殿御父藤井又左門

御藤中三條殿同 蒲生親輝守

御用遠松丸殿同 京極長門守

御妻方加賀殿同 前田加賀守

御傍羅波姬殿同 淺井備前守

御父實木下孫右衛門 御母夢日輪
養父同明筑阿弥 懷中而生之故
母持款中納言御娘 幼名日吉丸

天文五年丙申正月元日於

豐臣秀吉公

尾州愛知郡中之中村御誕生

秀長 義濃守初小七良大知大納言

武藏守三益法印一露妻

女子 關白秀次母一孫初養及秀次弟白小吉尾州海部郡人号峽卓步將

女子 南明院殿

十六歲時赴遠江任松下加兵尉

永祿元年初於仕織田信長

号木下藤吉良後改羽柴

為筑前守天正五年十月叙

從五位下任右少將同十年任

參議叙從四位下同十二年

十一月任權大納言叙從三位

同十三年三月任內大臣叙

正三位同年七月十日任關白

同十四年十二月任大政大臣

自改姓為豐臣同十九年讓

關白職從是於世称大關
慶長三年八月十八日薨於伏

下并笛吹 五万石	酒井左門大夫家次	武及源合 一万石	松平源二良康政
相及小田原 四万五千石	大久保七良右門忠世	上及名和 一万石	松平和泉守家乘
力并矢作 四万石	鳥居房右門元忠	武及東方 一万石	松平丹波守康長
上及惣社 二万石	諏訪因幡守頼永	下并小島川 一万石	松平全殿頭家忠
下并相馬 二万石	上岐山城守定正	下并深和 一万石	松平伊豆守信綱
力并東金 一万石	阿部大藏大輔政家	武及八三 一万石	松平内膳正家重
武及松山 二万石	竹谷玄番頭家清	上及安生 一万石	管沼新八良定光
下并足利 三万石	大久保房左門忠教	下并畠高 一万石	管沼山城守定治
下并沼津 五千石	天野三良兵衛康景	下并本山 一万石	三浦監物重成
	安藤帶刀直次	下并細戸 一万石	小笠原左門尉祐信
	成瀬隼人正	下并山 一万石	木曾平三良義就
	渡辺半藏守綱	下并山 一万石	内藤豊前守信成

捕勇士鑑

捕河内判官正盛	恩地左近大郎滿一	早浪六郎忠信
同 正季	八尾別當顯幸	北辻玄蕃永正
同 正行	志賀左衛門正武	和田久郎正信
同 正儀	湯浅孫六八道	和田新右正次
捕家臣	恩地左衛門成色	田原仁郎秀成
和田和泉守正遠	長谷承九郎成常	高安丹下正長
和田新發意源泰	膳田左衛門重行	安間八道不頑
		本津本三成久
		臼井藤太成行

豐臣勇士鑑 二編

木下若狹守家俊
木下中納言家定

御譜代

塩川伯耆守国盛
堀丹波守直寄
小出播磨守秀政
毛利伊勢守高政
高木十良左衛門一忠
真田伊豆守信幸
土方河内守雄久
黒田勘解由好孝

小堀遠江守政一
鍋嶋筑後守勝茂
木村伊勢守重村
有馬修理大夫暗信
大邑丹後守喜前
伊藤修理大夫祐慶
稻葉右京亮貞通
建部丹波守政長
秋月長門守種長
東條下野守豊康
一柳左近直家
皆川山城守重村

御目見衆

毛利河内守秀頼
関長門守一政
杉原伯耆守吉重
直江山城守兼次
六郷兵庫頭政垂
水谷出羽守勝成
大田原備前守晴清
福原右馬之助信吉
大関右衛門北資
谷出羽守律友
溝口伯耆守秀勝

相良左兵衛長每
五島大和守盛季
分部右京亮政壽
戸澤右京亮政盛
神部下総守越利
田丸中務大輔国明
岩城忠三郎定隆
前野但馬守長明
阪崎出羽守長房
戸川肥後守遠安
徳永石見守壽昌
西尾豊後守光春

七及三四 二万石	大和高取 二万七千石	三及田原 三万石	紀伊若山 三万石	寺府中 七万石	三河白川 五万石	多及寺 七万石	三及明石 三万石	三及白石 八万石	三及津可 八万石	能及水海 七万石	蝦夷一田頭
山崎左馬之助家盛	本多因幡守俊政	伊木清兵衛忠治	栗山泉穀院	隱岐判官忠吉	町野長門守吉治	荒尾但馬守忠元	別所山城守義方	片倉小十郎宗貞	伊集院藏人極	長甲斐守友成	松前若狹守盛廣
豐臣氏 州業臣	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
蜂須賀又十郎	稻田大炊之助	青山新七	青山小助	河口久助	長山半之丞	加治田隼人	日比野六太夫	松原内匠	石川兵助	櫻井左吉	伊木半七

上及長輪 十二万石	力及大甲 十一万石	上及高井 十二万石	武及河内 一五万石	武及相生 二万石	上及小笠 三万石	同麻八 三万石	同白井 二万石	同八幡 一五万石	下千多尾 一五万石	同開者 四万石	上州山中 三万石
井伊兵部少輔直政	本多平八郎忠勝	榊原式部大輔康政	酒井河内守重忠	大久保相模守忠隣	真平美作守信昌	平岩主計頭親吉	本多豊後守忠貞	本多佐渡守正信	保科弾正忠直	久松佐渡守義堯	酒井宮内大輔宗次
力及赤里 三万石	三及田中 二万石	力及佐賀 二万石	上州多胡 二万石	同吉井 二万石	下千古河 二万石	下千原 一五万石	下千作倉 四万石	武及松市 二万石	力及各置 四万石	上及千綱 三万石	同周宿 二万石
大須賀五良左門忠政	高力左近清長	内藤左馬之助正武	牧野右馬之助康成	菅沼小大膳定則	小笠原知部大輔秀正	岡部内膳正長盛	松平七郎信吉	松平周防守康重	松平出羽守康近	松平右衛門大夫康勝	松平因幡守康元

